原子核三者若手夏の学校に対する援助要請

文責: 東 武大* (京大理・素粒子論・D1)

2002 年 2 月 8 日

1 夏の学校の開催目的・意義

「原子核三者若手夏の学校」(以下、夏の学校) は、日本国内の各大学及び研究機関に所属する素粒子・原子核の分野の研究に携わる若手研究者が、互いの交流を深めることで将来の研究の可能性を広げるべく、企画運営をしているものです。

この行事は、以下のような意義を持つものであり、2002 年度夏の学校で第 48 回目を迎え、連綿として続いてきました。

- 現在の素粒子・原子核物理学の研究の基本的な流れを掴み、分野全体の基礎的な知識を吸収する。
- 学生同士や講師との議論を通じて、今後の研究活動に必要な共同研究の基盤を形成する。
- 研究会などを通じて、学生が研究発表を行なうことによって、プレゼンテーション能力を向上させる。また、質疑応答によって研究に対する理解を深める。

2 2001 年度夏の学校活動報告

我々原子核三者若手は、2001 年度夏の学校を以下のような内容で開催致しました。

1. 開催日程: 2001 年 8 月 1 日 (水) ~ 8 月 7 日 (火)
   開催地: パノラマランド木島平 (長野県下高井郡木島平村上木島 3878-2)

2. 参加人数: 298 人

	M1	M2	D1	D2	D3	その他	合計
素粒子	89 人	38 人	24 人	11 人	2 人	1 人	165 人
原子核	61 人	15 人	13 人	7 人	4 人	2 人	102 人
高エネルギー	21 人	8 人	1 人	0 人	0 人	1 人	31 人
合計	171 人	61 人	38 人	18 人	6 人	4 人	298 人

3. 講義: 各テーマについて、各パートごとに分れて 6 時間の講義を行ないました (講師名の敬称略)。

   - 素粒子パート:
     「変貌するひもの統一理論」　糸山 浩　(大阪大学)
     「非可換幾何学と場の理論」　綿村 哲　(東北大学)
     「基本法則の場の理論」　井沢 健一　(東京大学)

*mail address: azuma@gauge.scphys.kyoto-u.ac.jp

- 原子核パート:
  「ハイパー核とバリオン間相互作用」　田村 裕和　(東北大学)
  「高励起原子核の構造 - 集団性と統計性」　松尾 正之　(新潟大学)
  「クォーク物質は中性子星の描像をいかに変更するか？」　巽 敏隆　(京都大学)
- 高エネルギーパート:
  「B decay による CP 非保存入門」　宮林 謙吉　(奈良女子大学)
  「JLC 計画の現状と展望」　藤井 恵介　(KEK)
- 三者共通講義:
  「超対称性粒子の探索」　川越 清以　(神戸大学)

4. 研究会: 研究会では、主に学生による研究発表およびその質疑応答を行ないました。また、その他にも以下のような企画を行ないました。

   - 素粒子パート:
     * 講義の質疑応答コーナー
     * パネルディスカッション (素粒子物理学を志す先輩から後輩に向けて)
   - 原子核パート:
     * ポスターセッションによる学生の研究発表
     * Topics 講義: 「軽い不安定原子核の奇妙な構造」 延与 佳子 (KEK)
     * Review Talk: 「原子核の形と周期軌道理論」 杉田 歩 (阪大 RCNP)
       「相対論的高エネルギー原子核衝突実験と高温高密度核物質の性質」
       大塚 直彦 (北海道大学)

5. DC abstract 集: 学生の研究についてまとめた DC abstract 集を作成することにより、夏の学校における学生同士の話題を提供し、また夏の学校に限らず、各大学のセミナーのスピーカーを呼ぶ上での資料として活用されています。

6. 講義録の作成: 各パートで行なわれた講義録を web 上で公開しております。これらの講義録は第一線の研究者による教科書として大学院生によって活用されています。

7. セクハラ対策 WG: 2000 年度夏の学校では、女性参加者に対する悪質なセクハラ事件が 3 件起こりました。三者若手はこの事態を重く見て、「セクハラ対策 WG」を設立することでこのような不祥事を防ぐための対策を行ないました。具体的には 2001 年度には、相談窓口の開設、女性参加者に対する注意メモの配布、参加申し込み HP およびパンフレットへの昨年の出来事と注意の呼び掛けの文書の掲載、女性フロアの分離及び「男子立ち入り禁止」の立て札の設置、茶話会の開催 (三者共通講義後) を行ないました。

   その結果としてあげることのできた成果は以下のとおりであり、とった対策は非常に有効でした。

   - 注意メモについては、アンケートで殆んどの回答者が、不祥事の予防に効果があったと答えていました。
   - 相談窓口の存在自体によって、昨年と比べて夏の学校の雰囲気が引き締まり、改善されました。

   こうした体制は、来年度へもしっかりと引き継いでいきたいと考えております。

3　原子核三者若手の予算案

3.1　2001 年度決算

2001 年度の原子核三者若手夏の学校の決算 (2001 年 9 月 17 日現在) は以下のとおりです。

- 収入:

前年度繰越金	2,782,408 円
基研援助 (講師旅費)	484,640 円
基研援助 (印刷費)	46,200 円
素粒子論グループ援助	450,000 円
参加費	873,000 円
合計	4,636,248 円

- 支出:

ポスター代	46,200 円
講師旅費	484,640 円
学生旅費	1,000,620 円
夏の学校運営費	378,883 円
次年度繰越金	2,725,905 円
合計	4,636,248 円

- 2000 年度会計までは、繰越金が増大する傾向にありましたが、2001 年度の運営ではこうした問題点の反省を踏まえて、旅費補助を夏の学校の事後に、参加者のキャンセルや運営のための費用が判明した後で算定を行ないました。その結果として、これまでのように黒字が累積する現状を解決しました。
- これまでは、講師旅費が基研からの援助のみであったことから、原子核パートの topics 講師 1 名、及び review talker2 名の方の旅費は、「夏の学校運営費」より捻出してきました。そのため、2001 年度に援助をした金額は 3 名で計 60,000 円でしたが、交通費及び滞在費を全額支給することはできませんでした。

3.2 2002 年度予算案

2002 年度夏の学校の予算案は、以下のとおりです。

- 収入:

前年度繰越金	2,700,000
基研 (ポスター印刷費)	100,000
素粒子論グループ	0
参加費	900,000
合計	3,700,000

- 支出:

講師旅費	700,000
学生旅費補助	1,000,000
夏の学校運営費	300,000
次年度繰越金	1,700,000
合計	3,700,000

- 後述致しますように、2002 年度会計では繰越金が累積している事情により、繰越金 **100** 万円を償却する予定でおります。
- 今後の運営では、原子核パートの topics 講師 1 名及び review talker2 名の方の旅費は、講師旅費の枠内で支払いたいと考えております。

4　2002 年度夏の学校の運営計画

2002 年度夏の学校につきましては、以下の方針で運営を行なっていきたいと考えております。

- 開催日程: 2002 年 8 月 1 日 (木) ~ 8 月 7 日 (水)
- 開催地: パノラマランド木島平 (長野県下高井郡木島平村上木島 3878-2)

4.1　2002 年夏の学校の講義

まず、パートごとの講義、及び夏の学校特別講演につきましては、以下のように講師が決定致しております。但し、現段階では topics 講師及び review talker の方は決定致しておりません (以下、敬称略)。

- 素粒子論パート:
  「超弦理論と量子重力」　磯 暁　(KEK)
  「高次元ゲージ理論とゲージ階層性」　稲見 武夫　(中央大学)
  「超対称性と階層性」　中野 博章　(新潟大学)
- 原子核パート:
  「クォーク・ハドロン物理における
  カイラル対称性」　保坂 淳　(RCNP)
  「原子核の平均場と殻模型 – 現状と展望」　中田 仁　(千葉大学)
  「中性子過剰エキゾチック核の構造」　中村 隆司　(東京工業大学)
- 高エネルギーパート:
  「謎の粒子ニュートリノと物理」　原 俊雄　(神戸大)
  「LEP から LHC そして JLC へエネルギー
  フロンティア – 実験の夢と現実」　山下 了　(ICEPP)
- 夏の学校特別講演:
  「標準模型以前の素粒子物理」　小林 誠　(KEK)

4.2　夏の学校の改善計画

今後に向けて、夏の学校をより有意義な企画にするために、以下の事柄を検討致しております。

1. 夏の学校の雰囲気の改善:
   2002 年度以降の夏の学校でも、セクハラ対策 WG の行なった、相談窓口の継続、注意メモの配布などを行なって行くことで、夏の学校の雰囲気を引き締めていきたいと考えています。

2. 研究会の活性化:
   これまで行なった企画で好評であるものを継続、あるいは斬新な企画を検討することで、より有意義なものにしていきたいと考えております。中でも、原子核パートで行なった **topics 講義及び review talk** は非常に好評でしたので是非とも 2002 年度以降も続けていきたいと考えております。

4.3　2002 年度の援助要請の方針

[sg-l 1201] で報告致しましたように、原子核三者若手は現在 280 万円の前年度繰越金が存在しています。こうした現状を踏まえて、我々三者若手は以下の方針で今後の運営にあたりたいと考えております。

1. 若手内部での繰越金の適正金額の共通見解:
   三者若手が今後安定した運営を行なっていくためには、**100** 万円 ~ **150** 万円の範囲内を適正金額と定めました。

2. 素粒子論グループ (以下、素 G)、基礎物理学研究所 (以下、基研) に対する援助:
   従来は素 G より 45 万円、基研より講師旅費 50 万円およびポスター印刷費 10 万円の旅費補助を頂いておりましたが、2002 年度は繰越金が累積致しておりますため、以下の方針で交渉を致しております。

   - 素 G については、今年度は援助を辞退しております。
   - 基研については、ポスター印刷費 **10** 万円のみの減額申請を致しました。これについては、基研研究部員会議で可決されております。
   - しかしながら、素 G・基研からの援助は、夏の学校の参加者の負担を軽減する上で非常に重要な位置を占めるものであり、繰越金が適正規模に戻った際には、従来どおりの継続した援助を再開して頂けるように交渉を進める方針でおります。

3. 現状では、原子核三者若手は既に繰越金が累積している問題がありますが、将来的に充実した夏の学校の運営を行なうために、以下のかたちで援助拡大を行ないたいと考えております。

   - KEK に対して交渉を致しましたところ、KEK より参加される講師の方については旅費補助を出して頂けることになりました。
   - 貴研究所に対しては、講師旅費補助 **20** 万円の援助をお願い致します。

5 貴研究所にお願いする援助

我々三者若手は、貴研究所より将来的に継続した援助を希望致します。2002 年度夏の学校について希望する、金額及び名目は以下のとおりです。

講師旅費 20 万円

現時点では、2002 年度夏の学校ではパートごとの講師 8 名、夏の学校特別講演の講師 1 名、topics 講師 1 名、review talker2 名、計 12 名の講師の方に講義を依頼する予定でおり、講師旅費として計 70 万円を見込んでおります。将来的には基研より 50 万円の旅費補助を再び頂けるように交渉を進めるつもりでおりますが、それでは講師旅費のすべてを賄いきれない状況にありますため、貴研究所より講師旅費 20 万円の援助をお願いする次第であります。

また、遠方の学生にとって夏の学校に参加する経済的な負担は非常に大きなものがあり、このことは夏の学校を活性化するにあたって深刻な問題となっております。これを軽減するために、若手内部では夏の学校の参加費を、参加者の大学院学生より徴収しており、素 G より頂いている援助と併せて夏の学校の運営費及び学生旅費補助として充てております。この方針により、参加者の経済的負担は軽減されておりますが、依然参加者の負担は大きいものがあります。2001 年度夏の学校でアンケートをとりましたところ、参加者の **6** 割が夏の学校の参加費に負担を感じるとの回答を寄せております。それゆえに、学生旅費補助はますますの拡充が必要でありこそすれ、現状以上に削減することができない状況にあります。

以上の事情により、三者若手は貴研究所より夏の学校への継続した資金援助を頂くことを希望致します。援助を頂ける場合、夏の学校に後援あるいは協賛して頂いた旨をポスターやパンフレット、web に明記させて頂きたいと考えております。三者若手は、貴研究所より資金援助を頂くことで、責任感を持って夏の学校を活性化させるべく運営に尽力していく所存でおります。